

資料翻刻Ⅰ

横溝正史日記

昭和10年、23年、30年、32年



成城自宅の縁側にて

横溝正史（よこみぞ・せいし [本名：まさし] 明治35・1902～昭和56・1981）
兵庫県生まれ。小説家。1921年「新青年」に処女作を発表、1925年江戸川乱歩の招きにより上京し、博文館に入社する。「新青年」「文芸倶楽部」などの編集長を経て文筆業に専念し「鬼火」などを発表。探偵小説の発表が難しい戦時下は捕物帳時代小説の分野で活躍した。1945～48年、岡山県吉備郡岡田村（現真備町）で疎開生活を送る。1946年発表の本格長篇推理小説「本陣殺人事件」で戦後の推理文壇に多大な影響を与え、映像化された作品も多数。1948年より没年まで成城在住。

書けぬ旨重ねて返事を出す。甚だ残念なれど致し方なし。午後、依然として気分重し、早慶戦をきく。早8―慶4、蒸暑くして体温上昇す。五時半―六時半まで思ひきつて畑へ出る。却って幾分か気分軽くなる。夕食後四十分庭にて外気に浴す、涼しくして気分稍直す。ラヂオにて一柳君*のチェロを聞き感服す。

*萱原氏 萱原宏一。編集者。「講談倶楽部」「キング」の編集長を務めた

*一柳君 チェリストの「柳信二（一柳慧の父）」

〔6月10日 月曜〕

6。4。6。5。6。9。6。7。6。5。大小便良好

朝二椀 昼二椀 夕二椀 晴 暑

六時半起床 火蛇下書十二枚 浅見君より手紙。譚海*来る。午後は全部裸体にて空気浴安静。昨日にくらべ稍涼し。夕刻畑へ赴く。これが第一の楽しみ。気分快し、八時半より床に入。九時頃眠る。

*譚海 「少女女譚海」。博文館発行の児童雑誌

〔6月11日 火曜〕

6。4。6。4。6。7。6。4。大小便良好

朝昼夕二椀 晴 冷

熟睡して気分爽快なり。七時半起床、畑に赴く。火蛇十七枚下書、最初より書直し六枚書く。新少年*来る。午後かなり涼し、殆ど安静を怠る。夕刻畑へ赴く、夜庭にて四十分位空気浴、十五分散歩、注射 ラヂオを聞く、寝つかれず。「仮面」のプロット成る。「まぼろしの女」の書出しの腹案成る

*新少年 博文館発行の児童雑誌

〔6月12日 水曜〕

6。4。6。3。6。4。6。3。大便稍軟シ 小便濃シ

朝二椀 昼夕二椀半 晴 暑シ

六時起床。Poll* 畑へ行く。火蛇四十五枚迄書く。昼は概ね安静、夕方畑へ行く。外国雑誌を漁る。夜は殆ど安静せず。

*Poll 不明

〔6月16日 日曜〕

6。2。6。6。6。7。6。3。大便良シ 小便濃シ

朝二椀 昼夕二椀半 晴 暑シ

朝六時起床 pundo* 畑へ行く。水谷氏、探偵文芸より手紙 返事出す。朝、九時より十二時迄仕事。昼安静四時より六時迄朝の仕事の清書、ホンヤク八枚なり。夕、畑へ行く。散歩後安静。本日は少し安静不足。夕方の仕事の後に喀痰あり。気を付けるべし。

*pundo 不明

〔6月17日 月曜〕

6。2。6。5。6。7。6。3。大便稍軟シ 小便濃シ

朝二椀 昼二椀 夕二椀 曇 蒸ス

六時起床、畑へ行く。朝九時より十一時迄仕事、ホンヤク八枚下書、同清書、昼安静。四時頃まで外国雑誌を読む。水谷氏より水彩画の書方来る。五時より六時半まで畑。茄子ノ苗を植ゆ。夜二十分散歩、一時間余庭にて藤椅子に寄る。雨降りさうにて降らず。九時より九時半までラヂオ 十時頃より雨来る

〔6月18日 火曜〕

6。3。6。5。6。7。6。2。大小便良シ

朝昼晩二椀 牛肉 曇 暑シ

六時起床。夜来の雨七時頃歇む。畑へ行く。（春秋社の神田修二*より出版に就て手紙来る）九時より十一時半まで仕事 写実主義*十枚訳す

朝二椀 昼夕二椀半 食欲好シ 晴 薄寒シ、

朝七時起床、昨夜うまく眠れず寝足りぬ気持ち。火蛇十八枚迄書く。午後は主として安静、夕刻畑へ赴く。草花に肥料をやる。今日は天気よきも薄ら寒きほどの陽気なり。二時、入浴、とても体だるし、「探偵文芸」*来る、宜子*遠足元氣にて戻る。寝つき悪し。

*「探偵文芸」奎連社発行の「探偵文芸」は昭和2年に廃刊している。昭和10年3月創刊の同人誌「探偵文学」（「シュビオ」の前身とされる）のことか

*宜子 横溝正史の長女。よし子とも表記

〔6月13日 木曜〕

6。3。6。5。6。6。6。3。大便良シ 小便濃シ

朝二椀 昼夕二椀半 晴 温

朝七時起床。火蛇三十枚迄書く。午後は主として安静、森下氏、岩崎君*より結婚通知状、アサヒグラフ*来る。森下氏には手紙を出す。夕刻畑へ一時間、食後又半時間畑へ行く。二十日大根ヲ間引く。夜は殆ど安静せず、九時半就床

*岩崎君 岩崎昶。映画評論家、映画製作者、ドイツ文学者

*アサヒグラフ 朝日新聞社発行のグラフ誌

〔6月14日 金曜〕

6。3。6。4。6。8。6。3。大便良シ 小便濃シ

朝二椀 昼夕二椀半 晴 暑シ

七時起床 火蛇三十六枚迄書く。並びに下書八枚書く。昼は概ね平穩にゐる。夕方畑へ行く。夜は殆ど安静せず。九時半就寝。夜中に火事にて眼を覚す

〔6月15日 土曜〕

6。2。6。5。6。7。6。3。大便下痢 小便濃シ

午後は安静 外国雑誌を読む。五時より六時まで畑作り、散歩 杓子菜の種を蒔く。注射 夜七時半より八時十分まで散歩。本日は朝より蒸暑し。最高二十九度、但し夜は急に涼しくなる。

*春秋社の神田修二 春秋社創業者の次男で「探偵春秋」の編集長を務めた神田澄二のことか

*写実主義 リチャード・コンネル「写実主義」(「新青年」昭和10年夏期増刊号に掲載)

〔6月19日 水曜〕

6。3。6。5。6。8。6。5。大便軟シ 小便良シ

朝昼晩二椀 曇 涼

六時半起床。睡眠稍不調。畑へ行く。散歩十五分、入浴、入浴のせみかとても体だるく九時より十時までうたゝねする。十時より十二時半までホンヤク十枚やる。午後は安静。四時半より五時二十分迄湖畔散歩。二十分休憩、それより畑へ行く。殺虫剤を施す。午前少女クラブ*、本位田君*より手紙来る。春秋社への出版断り状と共に直ちに返事を出す。

夜ラヂオ

*少女クラブ 「少女倶楽部」。講談社発行の少女雑誌

*本位田君 本位田準一。本位君などとも表記あり。江戸川乱歩の旧友で、「文芸倶

楽部」 「実話雑誌」などの編集にも携わる

〔6月20日 木曜〕

6。3。6。5。6。7。6。3。大便下痢気味 小便ヨシ

朝昼夕二椀 曇 冷シ

六時半起床。睡眠不足にて気分重し。畑へ行く。十時より十二時迄ホンヤク九枚やる。手紙も何も来ず甚平和なり。昼は安静。ホンヤク二枚する。夕方畑へ行く。散歩四十分。夜散歩二十分。アダリン*四錠を飲み眠る。

*アダリン ドイツ製の催眠鎮痛剤

〔資料翻刻1〕横溝正史日記(昭和10年、23年、30年、32年)

〔6月21日 金曜〕

6。4。6。2。6。8。6。3。大便下痢気味 小便良好

朝昼夕〔二椀 曇雨 寒シ〕

八時起床。アダリン残りて眠く物憂し、友井君*より手紙来る。直ちに返事並びに本位田君より手紙を書く。文藝通信*来る。昼安静。四時より五時迄散歩。途中より雨に降らる。黄金宝库*を読む。「薔薇郎」*にこの形を幾分取入れやうかと思ふ。本日は仕事を一切見合はず。

*友井君 小説の解剖学的描写について相談していた慈恵医大の医師・友井敏男のことか

*文藝通信 文藝春秋社発行の文芸誌

*黄金宝库 F・T・バルグレイブ著“The Golden Treasury”の事か

*「薔薇郎」 薔薇郎が登場する「薔薇と鬱金香」のことか

〔6月22日 土曜〕

6。6。6。4。6。7。6。5。大便軟シ 小便濃シ

朝昼夕〔二椀

七時起床、朝飯前四十分散歩、九時半よりホンヤク二枚する。疲れてるのでそれでホンヤクはあきらめ、ホンヤク六十枚水谷君に送る。上塚君*より九月号に五十枚書けとの手紙来る。引受ける返事を出す。あとで何だか心配になったが、何とかやる事にする。十一時半より十二時半迄、火蛇九枚下書する。昼はウト／＼してゐる。夕方聚雨*あり、夜降ったり歇んだり。「妖鏡」*といふ題を講談雑誌*の小説の題に撰ぶ アダリン四錠

*上塚君 上塚貞夫。筆名・乾信一郎。作家、編集者。「新青年」5代目編集長

*聚雨 複数記載あり、驟雨のことと思われる

*「妖鏡」 未発表作か

す事にする。トマトが大分実りかけたり。

〔6月27日 木曜〕

6。7。6。2。便固シ 雨 暑シ

七時半起床。排便腰湯を使ふ。畑へ行く。アサヒグラフ来る。「妖鏡」十枚まで書くが気に入らず、全く別のものにしようかと思ふ。午後「火蛇」十枚を最初より書直す。この方は稍意に充てり。四時頃より雨となつたため、今日は一日散歩せず。講談雑誌の筋に苦む。「夜光獣」*にしようかと思ふ。

*『夜光獣』 7月3日の項にもあるように「獣人」〔講談雑誌〕昭和10年9月号所収に改題

〔6月28日 金曜〕

6。8。曇 暑シ

七時半起床、昨夜二時まで眠らず。畑へ行く。「火蛇」十六枚書く。「夜光獣」のプロット成る。一日、降ったり歇んだり。午後はとても蒸暑シ 今日より又朝日新聞を取り始む。

〔6月29日 土曜〕

6。8。豪雨 暑シ

夜来の豪雨益々甚し。八時起床。洪水になるかと心配す。「夜光獣」十一枚書く。何とも言へず蒸暑し。ホーム・ライン*来る。午後は安静にしたり、散歩したり。湖水へ水を見に行く。片倉館*の側まで水が来てゐるのに驚く。号外、京都大洪水の由。一日先生を待てど来らず。夜は又雨となる。

*ホーム・ライン 玉置合名会社発行の雑誌

*片倉館 上諏訪にある温泉施設

〔6月30日 日曜〕

*講談雑誌 博文館発行の大衆文学雑誌

【備考】6月22日と6月23日の日記上部に「↑↑」の交換の矢印あり

〔6月23日 日曜〕

6。3。6。2。6。8。6。5。大便軟シ 小便濃シ

朝昼夕〔二椀 曇 蒸ス

七時半起床、朝飯前一時間散歩。十時より十一時半迄、ホンヤク九枚する。昼、法政対ヒリッピン*の野球をきく。夕方又一時間散歩。少し散歩し過ぎる嫌ひあり、「黄金宝库」*を読む。夜半時間散歩、四時頃注射大小、夜ラヂオ

*ヒリッピン フィリピンのことか

〔6月24日 月曜〕

6。3。6。2。6。7。雨 涼シ

七時起床。別に变りなし、「妖鏡」のプロットを考へる 雨にて終日閉じ籠つてゐる どこからも手紙来ず。夜仲々寝つかれず。

〔6月25日 火曜〕

6。3。6。2。6。8。便固く痔起ル 晴 冷シ

七時起床。○入浴、畑へ行く。散歩少々 「妖鏡」六枚書く。面白くなし。昼注射、午後又妖鏡を初めより書く。面白くなし、段々悲観する。夜アダリン四錠、寝つかれず 十二時頃散歩。二時を打つのを聞きてやっとうと／＼する。

〔6月26日 水曜〕

6。8。6。7。便固シ 曇 蒸暑

七時起床。排便後腰湯を使ふ。畑へ行く。上塚君、水谷君、本位君より各々手紙来る。「妖鏡」六枚書く。稍々自信を持ち直すが依然として面白くなささうなり。ホタルの事、仮死の埋葬の事などでいくらか誤魔化

6。9。雨曇 26。

八時起床。入浴、雨まだ小さいのが降つてゐる。夜光獣十六枚迄書く。但し又嫌になり、最初より書き直さうかと思ふ。憂鬱なり。午後雨は歇みしも、陰鬱な天気蒸し暑し。但し温度は二十六度。四時半頃先生来訪。注射。「牧逸馬」氏*の計を号外に見る。京都の洪水愈々甚しき由。本日も又何となく心苦く苛々する。夕方より風強し。

*「牧逸馬」氏 小説家。林不忘、谷譲二、牧逸馬の三つのペンネームを使い分けた

〔7月1日 月曜〕

6。9。雨 暑シ

夜中豪雨。殆ど眠らず。講談雑誌八月号来る。文芸通信より三、四枚書けと来る。どうしようかと思ふ。「夜光獣」始めより書直し十二枚迄書く。十一時頃より十二時迄又豪雨。午後四時頃迄安静、五時頃より六時迄、湖畔散歩、水溢れて釣客の夥しく群れたるを見る。夜、庭にて藤椅子に椅子、或ひは歩き廻る。夕方より雲切れはじめ星影チラリホラリ。但しまだ晴れさうになし

〔7月2日 火曜〕

6。9。雨 涼シ

アダリンを嚙んでかなり熟睡す。新青年より「蔵の中」の稿料来る。百六拾五円也。礼状出す。「夜光獣」下書四十二枚迄書く。雨降つたり止んだり。午後、水谷君より探偵随筆六枚書けと来る。承諾の旨ハガキ出す。文芸通信へも何か書かうと思ふ。夜散歩半時間。雲稍々切れて星影洩る。

〔7月3日 水曜〕

6。9。雨 涼

八時起床。畑へ行く。相変らず雨。「獣人」最初より十二枚清書し直す。

獸人とは夜光獸の改題なり。思ひがけなく野村胡堂氏*より懇切な見舞状を戴く。「新青年」を待てども来らず。午後は安静、夜、野村氏へ礼状を出す。

*野村胡堂氏 野村胡堂。小説家

〔7月4日 木曜〕

7. 1. 雨 涼

八時起床。入浴。降ったり歌んだり。暴風の警報出る。畑へ行く。新聞の新青年の広告見る。「獸人」二十二枚迄清書す。新青年来らず。本屋へ注文す。大下氏*より来信、「蔵の中」に対する好意ある批評なり。午後文芸通信へ随筆四枚送る。大下氏へ礼状を書く。本屋に新青年来る。女房がひどく子供を折檻す。今日は少し仕事し過ぎ昂奮す。アダリン四錠。

*大下氏 大下宇陀児。探偵作家

〔7月5日 金曜〕

6. 6. 6. 6. 6. 8. 6. 5. 曇 涼

八時起床。何となく疲労して気分優れず。天気依然としてハッキリせず。獸人八枚清書す。疲労す。午後は安静、四時より五時まで家族一同と共に湖畔を散歩し畑へ行く。海野氏*の随筆を新青年に読み、氏の病氣らしいのが何となく気になる。見舞状を出さうかと思ふが止す。却っていけないやうな気がして。新青年今日も来らず多分紛失したのだらうと思ふ。

*海野氏 海野十三。小説家

〔7月6日 土曜〕

6. 4. 6. 7. 6. 8. 6. 9. 6. 4. 曇、雨 涼

七時半起 Pony*床。便固くして稍出血す。腰湯を使ふ。亮一*昨夜より

熱あり。はしかの疑ひあり医者に見て貰ふ。まだ不明、「獸人」十二枚下書

清書三十七枚迄する。西田氏*より来信。「蔵の中」の讃辞なり。すぐ返事を出す。アサヒグラフ、文芸通信より受取る。亮一、三十九度の熱を出す。いよ／＼はしからし。はしかならば心配いらぬとの事なり。夕方腰湯使ふ。尻痛し、痔の薬入れ毛糸の猿股をはく。

*Pony 不明

*亮一 横溝正史の長男。音楽評論家

*西田氏 西田政治。翻訳家、探偵作家。神戸二中時代の友人・西田徳重の兄

〔7月7日 日曜〕

6. 6. 6. 6. 6. 8. 6. 1. 痔出血少々 曇 蒸ス

七時起床 痔出血、腰湯を使ふ。「獸人」四十七枚迄書く。稍心臓悪くすぐ疲れる。講談クラブ*来る。亮一スツカリ熱下り、元氣なり。午後は階下にて安静。上塚君より中元来る。早速礼状出す。夕方畑へ行く。夕食後一時間湖畔を散歩す。注射。何となく体だるし、頭熱く心臓が重いやうな気がする。

*講談クラブ 「講談倶楽部」。講談社発行の大衆文芸誌

〔7月8日 月曜〕

6. 6. 6. 6. 6. 9. 6. 5. 晴 29

七時起床。腰湯を使ふ。「獸人」最後迄書くが四十一枚より又書き直し、四十五枚迄書く。今日は氣持よく、疲労を覚ええず。「探偵文芸」来る。午後、髭剃りする。宜子が又熱を出す。亮一は元氣なり 夕食後一時間半湖畔を散歩す。久し振りの晴天にて今日は一日氣分朗かなり。夜はラヂオにて河鹿の声をきく。

〔7月9日 火曜〕

6. 3. 6. 8. 晴 暑シ

て夕刻よりとても涼しくなる。

*中川君 「文藝倶楽部」の編集助手をしていた中川史郎か

〔7月13日 土曜〕

6. 4. 6. 6. 6. 7. 6. 4. 曇 涼シ

午前七時起床。昨夜はどういふものか大へん眠れず不快。仕事をしかけた所へ中川君来る。十一時頃迄話して帰る。後、「火蛇」最初より十一枚清書す。午後半時間程昼寝す。体ダルシ、四時半より六時頃迄散歩。本位君、水谷君より手紙。海ノさんは何でもなかったが、江戸川さんはあまり経過よからず、おまけに敏男さん*の自殺一件を本位君の手紙にて知り、ガク然とす。何とも言ひやうなく暗澹たる氣持になる。

*敏雄さん 平井敏雄。乱歩の末弟

〔7月14日 日曜〕

6. 4. 6. 6. 6. 9. 6. 4. 晴 30

七時起床、冷水摩擦。軽く散歩。「火蛇」二十四枚迄清書す。午後安静。注射。水谷君に手紙を書く。夜一時間半ほど湖畔を歩く。コロムビヤといふゲームをはじめて見る。

〔7月15日 月曜〕

6. 6. 6. 8. 6. 9. 6. 9. 鼻血少々 曇↓聚雨 27

七時半起床、冷水摩擦、畑へ行き、「火蛇」第一回分四十五枚清書す。午後、安静。夕方畑へ行く。茄子、胡瓜、二豆ト灰ヲヤル、段々曇ツテ来テ蒸暑クナル。夜、八時十分ヨリ八時五十分マデ散歩。パチンコトイフ遊戯ヲハジメテ見ル。ラヂオ聞ク。九時頃ヨリ雨トナル アダリン三錠。

〔7月16日 火曜〕

6. 6. 6. 7. 6. 9. 6. 4. 雨、曇 雨 29

七時半起床。冷水摩擦。昨夜は寝つき悪しく、十二時頃アダリン三錠の

めども、眠れず一時半頃散歩す。今日は眠く頭重し。午前中に、「火蛇」二十一枚下書きす。午後、安静。四時半頃より六時迄畑。セロリーを移植し、後へ二十日大根の種を蒔く。三つ葉を間引く。ナスターチューム、ローダンテなどを引き抜く。パチンコを見に行きたいと思へども雨のために行けず。

〔7月17日 水曜〕

6. 4. 6. 8. 6. 7. 6. 5. 曇 涼シ

七時半起床、冷水摩擦 昨夜はうまく寝つかれず。一時をきく。(人の妻*を読みたるせみらし) 十時より十二時半迄に火蛇第二回四枚清書す。午後、三十分程眠る。本位君より中元。新青年より増刊稿料百四拾五円。西田氏よりハガキ、税務署よりトクソク来る。夜一時間あまり皆で散歩。ソレゾレ返事出ス。

*人の妻 バーサ・M・クレイ著、黒岩涙香訳「人の妻」か

〔7月18日 木曜〕

6. 5. 6. 8. 6. 7. 6. 6. 6. 5. 曇、夕方より雷雨 涼シ

七時半起床。昨夜散歩が過ぎし為か体がだるいので、冷水摩擦を控ゆ。昨夜は十二時をきいて眠る。午前中(十時―十二時半迄)に「火蛇」第二回目、十四枚迄清書す。午後は殆んど安静。夕刻より聚雨。雷あり、新青年増刊来る。東京へ五十円送金。正木*、茅野*、神沢先生*へそれへ中元。

*正木 正木俊二(不如丘)。医師、作家。横溝が昭和8年に入院した富士見高原療養所の初代院長

*茅野 上諏訪の茅野病院の院長

*神沢先生 神沢太郎。茅野院長の甥で、横溝の主治医

〔7月19日 金曜〕

6. 6. 6. 8. 7. 0. 7. 1. 6. 7. 快晴猛暑 晴 32. 9

六時半起床。入浴 昨夜うまく眠れたせみか気持ちよし 火蛇六枚書く。亮一は通じあり段々よろしい。友井さんの雑誌来る。午後より猛烈に暑くなり、遂に三十三度、本年最高の暑さなり、体温亦大いに昂り七度三分。神沢師亮一を見舞はる。夜、家族と共に湖畔散歩。帰ると家の中がとても暑く

〔7月23日 火曜〕

6. 8. 7. 0. 7. 1. 6. 7. 快晴猛暑 晴 32. 9

七時起床。相変わらず暑し、仕事を休んで一日寝てゐる。友井さんより雑誌来る。亮一スツカリよくなり、お粥なれど食事大いに進む、今日も昨日に劣らず暑い、慣れたせみか、昨日ほど体温上昇せず。夕方湖畔へ散歩に行くも、腹痛くすぐ引返す。風少しもなく寝苦し。

〔7月24日 水曜〕

6. 6. 6. 8. 6. 4. 快晴猛暑 晴 32.

六時起床。階下にて七時迄横になる。冷水摩擦。仕事を休んで寝てゐる。昨日より稍温度低く、風がある為に変しのごよし 春秋社の神田氏より手紙、すぐ返事を出す。「面影双紙」*送れとハガキ出す 夜は一同と共に街へ散歩に出、落語全集を買ってくる。亮一坊主になる。宜子は今日で学校はおしまひ、夜は寒いくらゐ

*「面影双紙」「新青年」昭和8年1月号に発表

〔7月25日 木曜〕

6. 3. 6. 4. 6. 9. 6. 5. 晴曇 29.

八時半起床、昨夜は寝つき悪しく、アダリン四錠吞みて、一時過ぎに眠る。午前中に、火蛇七枚下書きす。神田氏に手紙出す。「鬼火」「蔵の中」など整理す。友井さんに手紙を書く。午後、「蔵の中」に一寸手を入れる。夜湖畔を一時間あまり散歩す。

6. 4. 6. 6. 6. 9. 6. 5. 夕刻より雷雨 曇 蒸ス

七時起床。昨夜は十二時をきいて眠る。体ダルシ 午前中に「火蛇」第二回、二十六枚迄清書す。午後は殆んど安静。夕刻畑へ行って、大根の種を蒔き、キャベツの苗を植える。馬鈴薯の収穫あり。夕飯前に四十分程散歩す。夜は聚雨あり。ラヂオ狂ひて聴えず。

〔7月20日 土曜〕

6. 3. 6. 5. 6. 9. 6. 3. 曇 蒸ス

六時半起床。昨夜は寝つきよく十時頃眠る。夜中一度眼覚めたるも間もなく眠る。午前中(九時―十二時迄)火蛇三十六枚迄書く。水谷君をはじめその他の諸氏より贈物来る。水谷、上塚、長井*、荒木*、広瀬*、堀*の諸氏へ礼状を出す。文芸通信、実話雑誌*来る。夜七時半より八時半迄湖畔散歩

*長井 長井壽助。小説家

*荒木 荒木稔。筆名・橋本五郎。探偵小説家。筆名は他に荒木十三郎、女銭外二

*広瀬 広瀬将。渡辺啓介・温兄弟の友人で、「新青年」にも小説を寄稿した

*堀 堀経道。博文館時代の友人

*実話雑誌 非凡閣発行の雑誌

〔7月21日 日曜〕

6. 4. 6. 6. 6. 8. 6. 5. 薄曇 暑

七時半起床。昨夜は寝つき悪く一時をきいて眠る。朝ケダルシ、仕事をやすんで十二時頃迄ウトウトする。女房は学校の先生のところへ挨拶にゆく。友井氏より来信、二時頃昼飯、亮一、食べたものをみな吐き出す。嘔吐二三回、神沢先生に診て貰ふ大した事なし。注射。夜は割合早く寝る。

〔7月22日 月曜〕

6. 6. 6. 8. 7. 0. 7. 3. 6. 7. 晴 33. 猛暑

〔7月26日 金曜〕

6. 3. 6. 5. 6. 8. 6. 6. 晴 29.

八時前起床、冷水摩擦、朝食後十時頃までうとうと眠る。十二時まで仕事、「火蛇」第二回分書きあげる。午後、「蔵の中」に手を入れる。夕食後「鬼火」前篇に手を入れる。八時より九時まで散歩、九時頃散歩より帰って検温すれば六度九分。今日は殆ど安静をせずこれではいけぬと思ふ。

〔7月27日 土曜〕

6. 5. 6. 9. 6. 9. 6. 9. 喀痰 晴 30.

七時半起床。「鬼火」後編に手を入れる 海野氏より著書を送らる。何となく物憂く、心樂しまず。喀痰あり。夜は散歩を見合せる。

〔7月28日 日曜〕

6. 5. 6. 7. 7. 1. 7. 1. 6. 9. 喀痰 晴 32.

八時起床。仕事を休む。何んとなく体だるく、心樂しまず。喀痰あり 春秋社、正岡君*より手紙来る。温度上昇、体温亦昂る。注射。夜は湖水まで往復、

*正岡君 正岡容(のちに正岡容)。作家、落語・寄席研究家

〔7月29日 月曜〕

6. 3. 6. 5. 6. 9. 7. 1. 6. 3. 晴 32.

七時起床。午前中に「鬼火」後編に手を入れる。午後は安静、暑くして体温亦上昇す。夜家内一同湖水へ往復す。

〔7月30日 火曜〕

6. 5. 6. 8. 7. 1. 6. 3. 夜、聚雨 雷雨 晴 32.

七時起床。午前中に「鬼火」後編に手を入れる。午後は安静。暑くして体温亦上昇す。中川君より手紙来る。夜家内一同湖水へ散歩に行く。雷雨至りて章周*へ帰る。豪雨にして雷又甚し。寝られず。二時頃アダリ

ン四錠をのめども、眠れず五時をきいて眠る。

* 章周て 周章てる (あわてる) か

〔7月31日 水曜〕

6. 9. 6. 夕方より曇 晴 34。

八時起床。昨夜の雷雨にて涼しくなるかと思つたのに反対に又暑し。

午前中うたゝねする。大阪、横山君*より中元来る。午後安静、暑し。

豆自動車が来るといふので夕食後片倉館へ行けども来らず、帰る。講談雑誌、新青年より原稿料来る。

* 横山君 不明

〔8月1日 木曜〕

7. 0 晴 34。

七時起床、相変わらず暑い事なり。新青年、講談雑誌へ原稿料の礼、海ノ

氏へ「火葬国」*の礼、横山氏へ中元の礼、神田氏へ出版承諾の旨、萱

原氏へ原稿遅れる旨、武夫*へ原稿紙の依頼状をそれぞれ出す。上田君*

に五枚の原稿送る。武夫より新青年の古い分送り来る。午後は安静、黒

白書房*より暑中見舞、夜一同と共に湖水に趣く。

* 「火葬国」 『火葬国風景(海野十三短篇集)』(昭和10年、春秋社)

* 武夫 横溝武夫。横溝正史の異母弟。「新青年」7代目編集長

* 上田君 あとに何度か記載のある六桜社の上田か

* 黒白書房 探偵小説を多く刊行した出版社

〔8月2日 金曜〕

6. 3. 7. 0. 夕方聚雨。晴 33。

七時起床。相変わらず暑し 午前中に火蛇第三回下書十二枚書き後、愛商

対岐商の野球をラヂオできく。愛商2—1岐阜商 午後は安静、ぶろふ

いるの九鬼澹君*より何か書けといつて来る。断り状を出す。高森氏*よ

り転居通知、文藝春秋より暑中見舞ひ。夜湖畔に散歩に行き、夕立に逢

ふ。夕立後、並木通を散歩す。

* 九鬼澹君 九鬼紫郎の筆名のひとつ(他に三上紫郎など)。小説家、探偵作家、編

集者。「ぶろふいる」編集長を務める

* 高森氏 高森栄次。編集者。「新青年」最後の編集長を務める

〔8月3日 土曜〕

6. 3. 6. 8. 喀痰あり 曇 29。

起床七時、火蛇十二枚下書する。午後中ラヂオにて、野球予選をきく。

講談雑誌来る。夜は家族一同街へ出て、芥川全集と鷗外全集、(共に改

造社の円本)を買つて来る。武夫、本位田君より手紙来る。本日は涼し

く、熱も低し 但し、一日中殆ど安静を怠り背骨痛し、

〔8月4日 日曜〕

6. 3. 6. 9. 喀痰あり 晴 30。

七時起床、火蛇三十四枚迄下書する 正岡君より礼状来る。ホームライ

ンより原稿依頼状来るが書かぬ事にする。武夫に礼状出す。注射最後な

り。夜は一時間半程湖畔逍遥す。日昼は相変わらず暑いが朝晩はメッキリ

涼しく大変しのぎ易し。喀痰検査にやる。

〔8月5日 月曜〕

6. 6. 7. 0. 喀痰あり 曇 29。

七時起床、「火蛇」第三回目九枚書く。新青年来る。今日は何となく体

だるく、胸痛し、一日憂鬱で寝てゐる 午後、都市対抗野球をラヂオで

聞く。夕方、探偵文学、戸田君*より暑中見舞来る。こちらからも出す。

* 戸田君 戸田謙介。編集者。昭和8年、本位田準一、横溝武夫とともに出版社、

六人社を発足

〔8月6日 火曜〕

優勝戦をきく。夕方、海野氏へ書道雑誌来る、江戸川氏より、履歴の間

合状来る、すぐ返事を出す。食道楽*来る。死を願ふや切なり。

* 食道楽 食道楽社発行の月刊誌

〔8月10日 土曜〕

喀痰あり 雨 涼シ

八時起床。朝中かゝつて、火蛇三枚書く。興味全くなく筆重し。昼中かゝつ

て火蛇一枚書く。探偵文芸より小栗氏*論をかけと来るが断る。気分重し。

亮一少し悪し。アダリン三錠

* 小栗氏 小栗虫太郎。小説家、探偵作家。昭和8年、横溝の代理原稿として「新青年」

に「完全犯罪」が掲載され、作家デビューした

〔8月11日 日曜〕

7. 0. 6. 3. 喀痰 曇 26。

七時起床。昨夜豪雨にてよく眠れず。十一時頃までうとくする。それ

より「火蛇」に手をつけたが遂に一枚も書けず。探偵文芸、津田君*よ

り暑中見舞、神田氏より題名の催促来る。神田氏へは早速返事出す。京

阪又洪水の由。午後湖畔に釣客を見に行く。釣客夥しく、魚又群れたり。

気分幾分救はる 亮一、まだ熱あり、元気なく、気になる。

* 津田君 津田莞。少年雑誌などの画家

〔8月12日 月曜〕

6. 5. 7. 1. 6. 3. 喀痰 牛乳3合 鶏卵3ヶ カルピス二杯

晴曇 30。

七時起床、昨夜は二時を聴いて眠る。何となく胃の工合重し。「火蛇」

四枚書く。亮一依然として熱下らず。医者へ連れて行かす、果してリン

パ腺結核との事、一ヶ月ぐらゐ安静にしてゐなければならぬ由。これに

て却つて勇気を揮ひ起す。今日は又暑くなった為か、三十七度を少し越

す。湖水まで散歩したが、体がダルイのですぐ帰る。慎重に！ 勇気を
出して！

〔8月13日 火曜〕

6. 8. 7. 0. ブローム剤 牛乳2 鶏卵2 曇 涼シ
八時起床。昨夜寝つきよろしきも一時頃眼をさます。ノルモザン錠*を
探してみて、江戸川乱歩氏の手紙を発見し寢床の中でよむ。それより眠
れず、四時頃になってやっとうとうとする。神田氏よりハガキ、直ぐ返
事、体だるく、意欲なく、仕事を放棄し一日寝てゐる。牛乳を一日二合
にする。亮一は急に熱が下ったものゝ、始終汗ばんでゐて、何となく体
具合が悪さう、顔色悪く著しく痩せたのが眼につく。晩に方々でお迎火
を焚いてゐるのをみる。子供にチョコレートを買ってやる。

*ノルモザン錠 胃腸薬

〔8月14日 水曜〕

6. 4. 6. 8. 6. 5. 6. 3. ブローム剤 牛乳2合 鶏卵2ヶ
雨 寒シ

七時半起床 昨夜は割によく寝たので今日はいくぶん気分よろし、但し、
胃の具合は悪く食欲なし。仕事を休んで一日寝てゐる事にする。昼過ぎ
てより「鬼火」を校正する、興味なし。生きてゐるのに迷ふ心地なり。
亮一は段々よろしいやうなり。背骨が痛いのでベッドの下へ板を入れる
事にする。

〔8月15日 木曜〕

6. 3. 6. 7. 7. 0. 6. 4. 喀痰2回 牛乳2合 鶏卵2ヶ
雨 涼シ

六時半起床、入浴、昨夜は睡眠普通、午前中「鬼火」を校正する。ラヂ
オにて甲子園の野球をきく。後、「獣人」と「ロンドン綺譚」*に手を入

れ、「蔵の中」と共に、春秋社へ送る用意をする。亮一、追々元気よろし、
宜子又少し熱ある由なれど、大した事ではなささうなり。

*「ロンドン綺譚」 トム・ガロン作を横溝が蓼科三の名義で翻訳した「視機械倫敦

綺譚」(「新青年」昭和10年2月号に掲載)

〔8月16日 金曜〕

6. 5. 6. 7. 6. 9. 6. 2. 喀痰ナシ 牛乳2合 鶏卵3ヶ
雨 涼シ

六時半起床 昨夜は雨のためうまく眠れず。体だるいゆえ、今日は仕事
せぬ事とする。一日中、ベッドに仰臥して、ラヂオで甲子園の野球を聴く。
午後、「面影双紙」にあっさり手を入れ、「鬼火」と共に春秋社へ送る事
とする。もとより不満なれど致し方なし、亮一、宜子共に変わった事なし。
夜湖畔へ流燈会を見に行く 食欲なし。

〔8月17日 土曜〕

津田君来る。風邪気味、咽喉痛し、
〔8月18日 日曜〕

七度四分

〔8月19日 月曜〕

不快

〔8月20日 火曜〕

不快

〔8月21日 水曜〕

不快

〔8月22日 木曜〕

不快

〔8月23日 金曜〕

不快

〔8月24日 土曜〕

不快

〔8月25日 日曜〕

七時半起床 不快

〔8月26日 月曜〕

不快

〔8月27日 火曜〕

不快

〔8月28日 水曜〕

不快

〔8月29日 木曜〕

雨

不快

〔8月30日 金曜〕

雨

不快

〔8月31日 土曜〕

雨

不快

〔9月1日 日曜〕

6. 3. 6. 6. 7. 0. 6. 4. 雨 涼シ
七時起床、豪雨、終日何もせず。出水の注意あり、気分よし。

〔9月2日 月曜〕

時事通信*より稿料、杉山*より電報、

八・四一五円(一四八五) 黒蘭姫、第三回

昨夜雨降りたれど今朝は上天気、但し、風やゝあり。午後、藤田君*と共に浅野先生のところへいく筈なりしも、大晦日、年越うどん腹につかへて気分悪し。止めにする。午後、曇りて季節風強くなる。午睡。夜、酒をのみて、早く眠る

*日本社「にっぽん」などを発行。のちの日本出版社

*時事通信 時事通信社。「読物時事」などを発行

*杉山 杉山書店の杉山市三郎

*藤田君 藤田嘉文。疎開先の岡山で出会った医学生。藤田との交流から「本陣殺人事件」のアイデアを得る

一月二日、金曜日、晴、後曇風強し。

着。作家クラブ*、海野、妹尾*、鬼怒川*、中野*、武田*、渡辺*

発。海ノ、西田、作家クラブへ原稿

◎一九四八年の課題 一二枚(会報)

女房倉敷へ「三本指」*を見に行く。午前中は暖かなりしも、午過ぎより又風出て寒し。作家クラブへ原稿を書く。

*作家クラブ 日本探偵作家クラブ。昭和22年発足

*妹尾 妹尾留夫(アキ夫)。翻訳家、探偵作家

*鬼怒川 鬼怒川浩。探偵作家

*中野 P54の中野(大阪新聞)と同一か。昭和22年10月の横溝日記にも「大阪新聞の中野時春君、原稿とりに来る」とある

*武田 武田武彦。作家、翻訳家

*渡辺 渡辺啓助。探偵作家。渡辺温(編集者、作家)の兄

*「三本指」 映画「三本指の男」(大映、昭和22年公開)。「本陣殺人事件」を原作

としている

一月三日 土曜日 晴

着。海野、九鬼、岩谷*、中澤*

午過ぎ原田貞四郎氏*来る。年始。後眠る。夜藤田君来る。年始。今日は一日中風なく、午後曇りたれど、わりに暖かなり。

*岩谷 岩谷満。探偵小説雑誌「寶石」の出版社・岩谷書店の社長

*中澤 不明

*原田貞四郎氏 不明

一月四日、日曜日、晴

着。西田、高岩*、原田、荒木以上全部年賀状。江戸川より空罐。

発。九鬼、荒木、武田、高岩、美枝*。

登美生*来る。亮一、「蝶々」*を見に行く。

夕方着。鬼怒川、

発。鬼怒川、妹尾、阿知波*、海野

登美生泊る。

*高岩 高岩肇。脚本家。「蝶々失踪事件」など横溝作品を手がけた

*美枝 不明

*登美生 不明

*「蝶々」 映画「蝶々失踪事件」(昭和22年公開)。「蝶々殺人事件」を原作としている。横溝は1月15日に鑑賞(P50)

*阿知波 阿知波五郎。探偵作家。アチバの表記も多い

一月五日、月曜日 晴、夜中風強く小雨

着。なし。

発。なし。

登美生、もう一晚泊る。

一月六日、火曜日 晴、風強し。

着。自由*、水谷、木々*、達子*、大賀*(年賀)

発。なし。

登美生かへる。一日ブラ〜、

*自由 自由出版社

*木々 木々高太郎。医学博士、小説家、詩人

*達子 横溝正史の末弟・博の妻

*大賀 不明

一月七日、水曜日、晴、風強し。

着。山陽朝報*。

徹夜にて「びっくり箱殺人事件」を書上ぐ

◎びっくり箱殺人事件 六十三枚。

*山陽朝報 のちの山陽新聞。岡山県中心の地方紙

一月八日、

着。西田、「郷土」*

夕方着。海ノ、自由、戸田、城*

発。「びっくり箱」を時事読物*を通じて送る。終日無為。

*「郷土」 不明

*城 城昌幸。小説家、探偵作家、編集者。「寶石」創刊時(昭和21年)の編集長

*時事読物 時事通信社発行の「読物時事」か

一月九日、金曜日、曇、雨模様、

着。「ぶろふいる」「真珠」*「TIME」*「にっぽん」*

夕方着。山崎*、城、戸田(謙介)、自由、

「夜歩く」を書きはじむ。

*「真珠」 探偵公論社発行の探偵小説雑誌

*「TIME」 アメリカのニュース雑誌

*「にっぽん」 日本社発行の大衆雑誌

*山崎 山崎徹也。「ロック」編集長

一月十日、土曜日、晴、

朝五時より起きて、「夜歩く」を書きはじめ午前中に書上ぐ。午後「男女」*より原稿取りに来たので渡す。

「夜歩く」 六十三枚。

六〇〇〇円……夜歩く第一回。

着。長谷川*、海野、「歪んだ顔」*

発。西田、

夕方着。水谷(荒木氏の事)本位田、海ノ、

*「男女」 中矢書房発行の大衆読物雑誌。のちに「大衆小説界」に改題

*長谷川 長谷川修二。翻訳家、映画字幕翻訳家、服飾評論家、文筆家

*「歪んだ顔」 角田喜久雄著。京都日日新聞社から昭和22年7月に、自由出版から

同年12月に刊行されており、当館ではどちらの版も横溝旧蔵書として所蔵している

一月十一日、日曜日、晴、

着。渡辺、(作家クラブ会報)阿知波二通、読売(経歴調べ)岩谷よ

りカラスミ。

昨日、「男女」の記者「小説」*(黒猫掲載誌)を持てるに驚く。わが方

へ送り来らず、稿料も寄来さず。不とゞき千万なり。今在君*来る。

発。海ノ、水谷、九鬼、熊谷*、以下ハガキ 本位、城、山崎、戸田、

速達渡辺、岩谷、

夕方着。海野四通、日本(原稿依頼)

*「小説」 かもめ書房発行の長篇小説雑誌

*今在君 1月26日の日記(P52)に「今在君来る。「夕刊岡山」を持参」とあるので、

「夕刊岡山」の編集者か

*熊谷 熊谷市郎。「ぶろふいる」発行人

十月十二日、月曜日 晴、

着。森下、中野、神吉*（原稿依頼）自由出版社、

二、五〇〇円―自由利息

発。森下へ本。森下、海野、江戸川 西田、長谷川修二

*神吉 光文社出版部長（少年漫画雑誌「少年」編集長）の神吉晴天か

十月十三日、火曜日、晴

着。なし。

発。村瀬*、葛山*、上塚、伊藤*、

夕方着。月刊読売*。新世界*（原稿依頼）

*村瀬 村瀬進。自由出版社社長

*葛山 葛山二郎。小説家、推理作家

*伊藤 不明

*月刊読売 読売新聞社発行の月刊誌

*新世界 新世界社発行の雑誌か

今日は春の如く暖かく、天気よし。「読売」を見ると、関西地震近からんと。あな恐ろし。

一月十四日 水曜日、雨。

着、「小説」 海野、

一日かゝって「双生児は囁く」を書く

◎「双生児は囁く」六十六枚

一月十五日、木曜日、晴、寒し、夜雪

着。杉山より春色眉かくし十冊。

発。「双生児は囁く」

石川*、藤田君と共に倉敷大映へ行く。講演二十分、後映画「蝶々」失踪事件を見る。先づ先づなり。後、清風荘にて茶菓の饗応をうけ、帰宅。

夜 石川、藤田、加藤*三氏を招待。新年会深夜の二時に至る。石川君泊る。外大雪なり。

*石川 石川淳一。疎開先の岡山で出会った神戸出身の音楽学校生。石川との交流

から「蝶々殺人事件」のアイデアを得る

*加藤 加藤一（ひとし）。疎開先の岡山で出会う。加藤から聞いた土地の話が、「本

陣殺人事件」や「獄門島」「八つ墓村」の構想をふくらませた

一月十六日 金曜日、晴、寒し

着、海野、二通、平吉*、牧歌社*、新世界社、

発なし。

*平吉 平吉廣州。大阪薬学専門学校の同窓生

*牧歌社 「小説特集」などを発行

一月十七日、土曜日、晴。

着、水谷、西田、海野。

発。西田、海野、平吉、高岩、

夕方着。九鬼、江戸川、大虚堂*より稿料、

六、六三〇円 殺人鬼終篇

*大虚堂 大虚堂書店。昭和21年に「りべらる」を創刊

一月十八日、日曜日、晴、暖、

着。海野（手紙とハガキ）

発。九鬼、水谷、海ノ、江戸川、熊谷、阿知波、今在。

亮一とよし子岡山市へ行く。日展見物、放送合唱団を聴きに行きしなり。

一月十九日、月曜日、晴、暖。

着、登美生より芝居番附とブロマイド 海野さんよりハガキ、井上

英三君*遺児より手紙。

発、なし。

あまりよい天気ので暖かなので、女房と二人で下肥担いで開墾地へ行き、ソラマメに施肥。落葉を掻く。わが家の菜園にキャベツ十八株植ゑる。

今在君来る。懸賞本極まりの由。

*井上英三君 仏文学者、翻訳家。昭和22年没

一月二十日、火曜日、晴、

着。森下氏より手紙とハガキ。（P・B本*の礼なり）

発。江戸川氏へ夕刊岡山*の懸賞募集本極まりの由報告。

今日も亦べらぼうによい天気なり。昨日よりまだ暖く、雨が近いのであ

らうと思はせる。夜遅く、石川、藤田、大溝君*来たり。二時過ぎまで

話していく。

*P・B本 ペーパーバックのこと

*夕刊岡山 昭和21年創刊。のちの岡山日日新聞。昭和22年に横溝疎開宅で座談会

を開催

*大溝君 不明

一月二十一日、水曜日、晴、暖し

着なし。

発なし。

女房、福田ヘスキちゃん*のくやみにいく。福田の篤さん*と一緒に帰る。

篤さんと二時ごろまで飲み、三時ごろ眠る。

夕方着。杉山より印税。乾。海野、月刊読売より金二回分、

三〇〇〇〇円、

三・三六六（五九四） びっくり箱第二回、

三二六四（五七六） 〃 三回、

*スキちゃん 不明

*福田の篤さん 不明

一月二十二日、木曜日、晴、

着。「TIME」「新青年」

福田の篤さん午後二時の汽車でかへる。原田の光枝さん*、石嶮持って

来る。夕方帰る。

夕方着。海野二通、山崎。

*原田の光枝さん 原田光枝。義姉。岡山疎開を勧め、住居を紹介した

一月二十三日、金曜日、曇、暖し。

着。なし。

発。海野、登美生

藤田君、サントニン錠*を持って来てくれる。

夕方着 海野、作家クラブ、

暖く、曇り、いまにも雨になりさう。

*サントニン錠 回虫駆除薬

一月二十四日、土曜日、雨後曇り

着、西田、トップ*

朝方雨あり。午前中に曇る。

*トップ 昭和21年に創刊された前田出版社発行の大衆文化雑誌

一月二十五日、日曜日、曇、

着。森下、海ノ、西田、乾、村瀬、中澤 延原*、山崎

夕方着、海野、九鬼、村瀬、

一日中曇り。但し、寒くはなし。

*延原 延原謙。編集者、翻訳家。「新青年」3代目編集長

一月二十六日、月曜日、晴、

着、九鬼、「キング」*② 「月刊読売」② 「冒険少年」*② 講談雜

誌① 登美生よりプロマイド

発。世界社*(福田泰子) 前田*(以上二通印税催促。読売、毎日、(以上二通履歴書)

合同*より、月刊岡山*の岡崎、児島*両氏来る。月刊岡山のスリラー号につき、人選、原稿依頼を依頼される。

発、森下(25枚100円) 角田*(50枚150円) 海野(30枚150円) 西田(20枚80円) 九鬼(25枚80円) 江戸川(10枚150円) をそれぐ出す。

今在君来る。「夕刊岡山」を持参。

夕方着。高岩君。

*「キング」 講談社発行の大衆娯楽雑誌

*「冒険少年」 日本正学館発行の少年雑誌

*世界社 「探偵実話」を発行

*前田 前田出版社。「トップ」を発行

*合同 合同新聞社のこと。この年5月に山陽新聞社に改名する

*月刊岡山 合同新聞社が発行していた月刊紙「月刊をかやま」のこと

*岡崎、児島 合同新聞社刊「月刊をかやま」の編集者

*角田 角田喜久雄。小説家

一月二十七日 火曜日、晴、稍寒くなる。

着。なし。

発 緒方氏*へ非戦災者税送る。

女房倉敷の税務署へ行く、洋服出来る。

夕方着。原田光枝さん、レーンコート地のこと。

*緒方氏 吉祥寺の家の借主

一月二十八日、水曜日 晴曇寒し。

着。「蝶々殺人事件」15冊来る。

一日寒くて、コタツに寝てゐる。「男・女」より豊田幸夫君、原稿を取りに来る。前日打電したのが間にあはなかつたのらしい。恐縮、夜、今在君来り、東京帝銀事件*について感想きいていく。

六、〇〇〇円 「男・女」夜歩く第二回、

*東京帝銀事件 昭和23年1月26日に起きた強盗殺人事件。行員ら12名が毒殺された

一月二十九日、木曜日、晴、

合同より、帝銀事件の感想きいて来る。女房税金払ひにいく。

発。杉山、登美生(五・〇円) 海野さん、

中澤へ税金そちらで支払ふやう手紙。

一月三十日 金 晴、

着、海野よりハガキ。

孝*来り一晩泊っていく。溝口*へ手紙ことづける。

*孝 横溝正史の甥

*溝口 横溝正史の姉・富重の婚家

一月三十一日 土曜日、晴、

着。西田、海野、登美生よりハガキ。「宝石」*

夕方着。上塚、橋本*、村瀬、岩谷、阿知波

四、四二〇円 獄門島、新年号、

孝午前中にかへる。海野さんより登美生の就職口につき来信、女房直ちに福田へ赴きしが篤さん留守なりし由。石川君来訪。六高*の笹井君*、

阿知波さんところより本持つて来てくれる。今在君新聞持参

*「宝石」 岩谷書店が昭和21年に創刊した探偵小説雑誌

*橋本 橋本善次郎。雑誌「真珠」などを発行した探偵公論社の編集者兼経営者

*六高 旧制第六高等学校。明治33年に岡山県岡山市に設立された。岡山大学の前

身校の一つ

*笹井君 不明

二月一日、日曜日 雨

着、阿知波、

発、阿知波、海野、西田、福田、

「男女」の豊田君来る。「夜歩く」六十枚を二日午後までに書く。夜十二時まで書く。

二月二日 月曜日、晴、

豊田君原稿もって四時の汽車でかへる。

夕方着。海野、森下、江戸川、村瀬、

二月三日、火曜日、

朝着。福田、東西出版社*、合同の児島

発、児島、海ノ、森下、江戸川、

夕方着、角田、作家クラブ、

*東西出版社 築井健人が設立した出版社

二月四日、水曜日 晴、

着、海野二通、鬼怒川、

発。諸方へ小包送る。

江戸川、海野、森下、西田、水谷、乾へ以上つぎの五冊、

「本陣」「蝶々」「罨」「双生児」「暗闇」

大下、木々(本陣、蝶々、暗闇、罨)

城、角田、延原(暗闇、本陣、蝶々)

税務署員来る。

発。角田、児島、乾、鬼怒川、

二月五日、木曜日、晴、

着。阿知波、海野、山崎、

自由出版社の本田氏来る。

夕方着 海野二通、関川*、「男女」

*関川 関川健治。横溝の友人

二月六日、金曜日、晴

発、富美生*、海野、

着。九鬼ハガキ地方事務所より西氏来る

*富美生 たびたび記載のある登美生と同一人物か

二月七日、土曜日、晴、

着 「ロック」*

獄門島書きはじめるがうまく行かず、

発、関川、山崎、

着。富士*より原稿依頼。東京*より同、自由出版社より利息。

*「ロック」「探偵雑誌「The Lock」。筑波書林発行の探偵小説雑誌

*富士 世界社発行の雑誌

*東京 新生社が昭和20年に創刊した「新生」から改題した雑誌

二月八日、日曜日、晴、

着。「リーダーズ、ダイゼスト」* 武田君より「日本小説」*

杉山君、寝込みを襲ひ来る。昼過ぎかへる。亮一のことよく頼む。

*「リーダーズ、ダイゼスト」「リーダーズ ダイゼスト」。アメリカの総合雑誌。日本版は昭和21年創刊

*「日本小説」大地書房、のちに日本小説社発行の文芸誌

二月九日、月曜日、晴、寒し。

着。水谷、作家クラブより二通、海野、孝(溝口)

発。熊谷、海野、水谷、福田、作家クラブへ(履歴、ハガキ、「探偵小説」)

二月十日 火曜日、晴、寒し。

着。西田、

昨夜「獄門島」書上げ、時事に頼む。

◎獄門島 五十三枚 第十五章 山狩りの夜

女房倉敷へ行く。夜浅野氏の招待、旧正月なり

*浅野氏 岡田村字桜の住人

二月十一日、水曜日、晴、やゝ暖。

着。関川君より「ヒット」*

*「ヒット」 東京スポーツ新聞社発行の野球雑誌

二月十二日、

着。中野（大阪新聞）、原田、前田、杉山、海野二通、乾、登美生、

女房倉敷へ行く。

二月十三日、

着。海野、村瀬、

発。武田、乾、中村（新生社*） 村瀬、杉山、西田、

*新生社 戦後初の総合雑誌「新生」を創刊した出版社

二月十四日、土曜日、雨後曇、

着、朝なし。

夕方着。西田、江戸川、（本の受取）城、武田、大阪新聞。

夜一時までかゝって「びっくり箱」第四回 半分書上げる。

二月十五日、日曜日、晴、夜雨、

着。阿知波、「男女」より夜歩くの、ゲラ。

発、江戸川、海ノ、大下（以下モチ送り状） 関川、登美生、西田、城、

武田、近藤（読者）モチを江戸川、海ノ、大下

夕方着。山崎、城

三月十六日 月曜日、雨、後、曇、

着。角田、登美生より文五郎芸談*、プロマイド。

「ビッキリ箱」六十六枚、読物時事を通じて送る。一日中寝てくらす。

*文五郎芸談 吉田文五郎「文五郎芸談」（昭和18年、桜井書店）

二月十七日、火曜日、晴、

着。なし。

夕方着、水谷、江戸川、

二月十八日 水曜日 晴

着。雑誌類のみ、

発。阿知波、海ノ、西*（講演謝絶）

夕方着、漫画と読物*、西田、風人社*（安中） 池内、海ノ三通、

女房倉敷へ行き、スプリング*を持ってかへる。

*西 不明

*漫画と読物 「読物と漫画」。「大阪バック」のち「漫画日本」から改題した大阪新聞社発行の雑誌。横溝の「薔薇より薊へ」「双生児は踊る」「双生児は囁く」を掲載

*風人社 「人情」などを刊行

*スプリング 不明

二月十九日、木曜日、晴、とても暖し。

着。雑誌（月刊中国*）

発。江戸川、水谷、海ノ、池内*

着。上塚、時事（税通知） 武田、

*月刊中国 昭和21年に中国新聞社が創刊した雑誌。昭和24年3月に「読物中国」に改題

*池内 二十一日会同人（大衆文芸）を編集）の池内祥三か

二月二十日

着。Gメン*、谷川（朝日） 登美生、杉山細君、

発、上塚（病気見舞ひ）

*Gメン Gメン社が昭和22年に創刊した探偵小説雑誌。昭和24年に「X」に改題

三月二十一日、土曜日、雨、

着。西田、鬼怒川、森下、

二月二十二日より三月二十六日まで日記怠る。

その間、双生児は囁く 六十六枚書く。河井来り、原稿持つていく。関

川君来り二晩とまっけていく。

着、オール小説*、ハンド・ブック社*、海野（五通）、山崎、城、乾、

岩谷から稿料、読売から稿料、武田、

*オール小説 江戸書院発行の大衆文芸誌

*ハンド・ブック社 ハンドブック社。「ホーム」など手芸雑誌を刊行

二月二十七日、金曜日、曇、

着。鬼怒川、（原稿月刊岡山出来た由。）キング、海ノ、熊谷、（黒猫

の稿料15円振替にて送りし由）

◎夜歩く 六十三枚。

二月二十八日 土曜日 雨

高松へ講演に行く。朝九時に家を出て夜六時半帰宅。留守中「男女」よ

り原稿取りに来て稿料おいていく。

二月二十九日 日曜日 晴、暖かきこと春の如し。

着 海野、平吉、河井、大下、

ボンヤリと捕物の題を考へる。

スミ『鳥田の大書』『月丸太夫』（猿芝居の太夫）『長崎土産』『蝶合戦』『石

見銀山』スミ東京『人魚のお波』

着。西田、森下、牧歌社、

発。西田、海野。

三月一日 月曜日 曇、稍寒し

着なし。

女房岡山へ出向く。

夕方着、海野、手紙とハガキ、

石見銀山を半分書く。

三月二日、火曜日、晴寒し、

着、海ノ、

◎石見銀山（東京・捕物）六十五枚書上ぐ。

夕方着、杉山より亮一の受験番号

三月三日、水曜日 快晴、

着。なし。

朝は寒く氷が張つてゐたが、日中は快晴にてよい天気なり。

発。「東京」へ原稿と手紙。「自由」へ黒猫のあとがき。大下、山崎

着。水谷、（クラブ賞授与式の報告）大下よりノリ。

題を考へる。

紅を買ひに来る女、（捕物）

地獄の花嫁

死仮面された女（或ひは女の死仮面）

着。武田君より原稿と日本小説。矢作君*より神戸の会報、「ぶろふい

る」より仮面の挨拶状*。「文芸」（二冊）

*矢作君 矢作京一。探偵作家。関西探偵小説新人会創立メンバー

*仮面の挨拶状 この2月に探偵雑誌「ぶろふいる」が「仮面」に改題しているので、

その挨拶状のこと

三月四日、木曜日、晴、やゝ暖し。

着、登美生、城（原稿サイソク）

夕方着、江戸川よりクラブ副賞、

発、武田の原稿を、月刊岡山へとどける。

◎「地獄の花嫁」「月刊岡山」九十二枚書上げる。

三月五日、金曜日、晴、

着。海ノ、森下二通、「読売新聞社内探偵小説を愉しむ会」。横溝善章

（倉敷市美和町）なる未知の人物より二万円貸せの手紙。

発。「地獄の花嫁」を月刊岡山へとどける。水谷（作家クラブへ金払

ふこと）江戸川、（クラブ賞の礼）海ノ、登美生、武田（原稿の

受取り）児島（原稿の訂正）

◎獄門島（第十三回）五十八枚、第十六章お小夜聖天 第十七章海賊の

砦

三月六日、土曜日、曇後雨

着。海ノ、延原（本の礼）自由（利子）熊谷（未知の人から染筆）

三月七日 日曜日、曇、霰模様

着、関川（礼状とプロ野球メモ）

伝記、蘆田（未知の人から無心状）「仮面」文苑社*から原稿依頼、

◎八つ目鰻、五十八枚（天狗）

夕方着 女性（原稿依頼）池内 福田トミ生 海ノ二通（ハガキ）渡辺、

大阪新聞より稿料

*文苑社 出版社

三月八日、月曜日、晴

着、中澤に送った金戻る

発、渡辺、海ノ、村瀬、城へ原稿。城へ（写真）ハガキ。

夕方着、「リー・ダイ」熊谷より稿料

三月九日、火曜日、晴、

着、ナシ

発、熊谷（ウケトリ）海ノ、杉山、森下、西田、江戸川（葛山の件）

帝銀事件の容ギ者として葛山君の名が出たので、驚き、一応交番へ葛山

君のところしらせておく。亮一岡山へ行く。

着。西田、

三月十日 水曜日、雨、

着。山崎、「月刊岡山」

亮一、今日より六高入試。ルミ*学芸会なれど、彼女は出してもらはず、

ナゲキなり。

着。海ノ、ハガキ二通、

夜、葛山君のことにつき、お巡りさん来る。

*ルミ 横溝正史の次女・瑠美

三月十一日 木曜日、春雨、

着。海ノ、（ハガキと手紙）武田武彦、乾信一郎、

夕方着。江戸川氏よりコップ。海野氏より本。

三月十二日、金曜日、曇、時々小雨

女房、よし子、亮一の汽車のため、駅へ立ちにいく。阿知波さん、葉沢

山下さる。

夕方着。海野、森下、中矢書房

三月十三日 土曜日、曇、雨、

発、武夫、大林*、海野、阿知波 江戸川、矢吹*、森下、海ノ、西

田、乾、鬼怒川、

着なし。

夕方着。三島（大地書房*） 榎井*

電報、「月刊読売」「朝日」「亮一」

女房昼頃、福田より帰る。

*大林 不明

*矢吹「男女」編集者

*大地書房「朝日」「日本小説」などを発行

*榎井 不明

三月十四日、日^{ママ} 曇 雨、

着。小野*（縁談）海野二通、Gメン、日本正学館*、橋本善次郎よ

り金、城昌幸

夕方着、西田手紙とハガキ、海野手紙とハガキ 河井君、（捕物の

注文）文芸クラブ、自由出版社より本二冊。

*小野 不明

*日本正学館「冒険少年」などを発行

三月十五日 月曜日、曇、小雨、

着。海野、

発。海野、西田、三島、河井君、

三月十六日、火曜日、曇、今にも降りさう。

着。海野二通と亮一

発。海野と亮一

夜より雨となる。

三月十七日、水曜日 雨、夕方曇、

着。原田、海野、

三月十八日 木曜日、晴、

着、「漫画と読物」「宝石」稿料

夕方着、海野手紙とハガキ、西田（獄門島の切抜）上塚、亮一、トッ

ブ社の移転通知。

三月十九日、金曜日 晴、

◎びっくり箱（六十五枚）

岩崎さん（社会部長）田村君と浜本君 八八新聞。カッキリ四時（シバ

ラクの楽屋入り）

第七章、わが道をいく

第八章 赤き赤き心。

着。西田、阿知波、

発、「月刊読売」原稿時事へのむ。

着。江戸川（葛山君のこと）ヤラカス館*。博、

藤田来る。石川君来り夜かへる。

*ヤラカス館 大阪の企業。中矢書房の親会社

三月二十日、土曜日、曇、時々雨、

着。週刊探偵、雄鶏通信*、

孝来る。浅野間さん*の畑へジャガ芋植える

*雄鶏通信 雄鶏社が発行の外国文化紹介誌。昭和22年より延原謙が編集長を務める

*浅野間さん 浅野間筆子。岡田村字校の住人

三月二十一日、日曜日、雨、

着、海野（ハガキ、手紙）「Gメン」「少年クラブ」、上塚 大林君、

キング、青木（出版申込み）西田（切抜き）

夕方着、海野、登美生、森下

孝、午前中帰る。

発。博、徳田（無心の断り）

三月二十二日、月曜日、曇。

着。亮一、針原*（原稿依頼）海野、

発。海野、亮一、大林、原田、

*針原 不明

三月二十三日より四月一日までなまける。その間書いたもの。

◎双生児は踊る 七十四枚、

◎夜歩く 六十八枚

五九五〇・〇〇 江戸川(第一書房)

三、〇〇〇円 武夫(クラブ)

三月二十五日、六高発表、亮一落つ。

三月二十九日、女房岡山へ行く、岡山より三十日に上京する。

三月二十九日、中矢氏、記者氏来る。「小説界」に捕物引受ける。

(二十七日、イモ床作る。二十八日、苗床作る)

四月一日、木曜日、晴、

着なし。全干ストにて何も来らず。

中矢書房より人来り原稿持っていく。

九〇〇〇・〇〇円 夜歩く(第四回)

四月二日、金曜日、雨、

着、海野(手紙とハガキ)、「宝石」「月刊読売」「スポーツ新聞」城君

より電報

◎獄門島、(第十四回)五十二枚、

第十八章、最後の十木 駒が勇めば花が散る

四月三日、土曜日、曇、

着。海野、(手紙1、ハガキ3) 西田、河井(原稿受取)

発。獄門島を時事を通じて起る。海野、城。

夕方着。海野(四千円返却) 亮一、月刊読売(稿料)

四月四日、日曜日 曇、

着。雑誌類、

よし子矢中*へ行き亮一の卒業証明書を貰ひ、東京へ送る。

*矢中 岡山県・矢掛町にある矢掛中学校

四月五日、月曜日、快晴

着。海野二通、亮一二通、雑誌類沢山、水谷、

題を考へる

「目」(現代物)

「振袖狂女」(捕物)「尼屋敷」

発。海野、水谷、

女房帰る。

着。西田、小玉(ファン) 孝 海野、

発。西田(香料三〇〇〇円)

四月六日、火曜日、晴、

着。西田、その他出版物、

四月七日、

着。上塚、講談社(パンフレット)

四月八日、木曜日、晴、

着。海野(ハガキ) 今在君来り、放送の依頼 懸賞小説持参、

杉山君来る。三万円渡す

発。海野、上塚

四月九日 金曜日、晴、

着。城(原稿受取り)

発。森下、海ノ、西田、鬼怒川、

杉山君帰る。

四月十日、土曜日、雨、

亮一帰る。女房岡山へ行く

着、海野二通、ハガキ、

発、杉山(三万円四〇〇〇円) 海、

四月十一日、日曜日、晴、

着、海野、矢島、武田、文芸クラブ

発、海野二通、武田、

◎自分の道楽 六枚、

*矢島 不明

四月十二日 月曜日、曇後雨、

着なし、

発。九鬼、江戸川 博、武夫

四月十三日、火曜日 雨後曇、

着、海野。オールロマンス*。孝、

*オールロマンス オール・ロマンス社発行の大衆娯楽誌

四月十四日、水曜日、曇、

着。森下

発。江戸川、森下、海野。

四月十五日、木曜日、曇、

着、海野、

放送に行く。くたびれる。

四月十六日、金曜日、雨、

着。海野二通、自由出版社より、西田、

二、五〇〇円、自由の利息、

四月十七日、土曜日、晴

着、西田、九鬼、原田、

四月十八日、日曜日、晴、

着。東横*より映画化申込み。海野、(手紙とハガキ)

発、海野、江戸川、西田、牧野(東横) 原田

*東横 東横映画株式会社。昭和24年公開の映画「獄門島」を製作

四月十九日、月曜日、晴、

着。森下、「朝日」より原稿紙。

「四月二十日(三十日未記入)」

五月一日、土曜日、晴

着。雑誌三種、上田君(六桜社*)

発、なし。

一日中かゝって、手紙、雑誌の整理をする。「りべらる」*「読物と漫画」

ともに二月号なし。藤田君が持ちかへったのか。「男女」より人来る。

一〇、〇〇〇円、捕物。

*六桜社 日本初の写真感光材料メーカーでコニカミノルタの前身の六桜社か

*「りべらる」 太虚堂書店発行のカストリ雑誌

五月二日、日曜日、晴 曇、

着。雨読書院*より原稿依頼、海野

発。海野、森下、西田、水谷。

着、海野よりハガキ二通、

*雨読書院 「読切雑誌」などを発行していた出版社

五月三日、月曜日、雨、

着。関川より日刊スポーツ。

◎緋鹿の子狂女―小説界 六十六枚

右を夜十二時頃まで書く。

五月四日、火曜日 晴、

着、海野、九鬼、探偵クラブ報、

「緋鹿の子」書上ぐ、昨夜は一睡もせず。

五月五日 水曜日、曇

着、新聞だけ。(后)海野三通

時事通信より林君、記事とりに来る。海ノ、九鬼に通信書く。

発、九鬼、海野(3)上田、五十嵐(原稿ことわり)

五月六日、木曜日 晴

着、森下夫人、湊*より写真、

発、海野(写真)湊へ礼状。

着、亮一、孝子*、杉山、世界社富士より原稿依頼

「夜歩く」半分書く。

*湊 横溝正史の甥

*孝子 横溝正史の妻

五月七日、金曜日、晴、雨、曇

着、新聞と、レポート

◎「夜歩く」―六十九枚書きあげる

発、杉山(出産祝ひ)、亮一、「漫画と読物」へ稿料サインソク。

着、海野、三島、戸島*

*戸島 不明

五月八日、土曜日、晴

着、森下、美枝より亮一の入学祝ひ。

発、海野、世界社へハガキ、

「怪獣男爵」三十一枚書く。

五月九日、

着、女房、海野三通、江戸川

六一二円、江戸川より分配金、

◎今日は日蝕なり。

着、九鬼、海野、

五月十日、月曜日、曇後晴

着、オール、(原稿依頼)

発、森下、西田、海野(二通)江戸川(金の受取り)九鬼、三島、オ―

ル(断り)孝子。

着、矢貴書房*(藤間哲夫)原稿イライ

*矢貴書房 矢貴書店。矢貴東司が創業、のちの桃源社につながる

五月十一日、火曜日、曇

着、「男女」

◎びっくり箱、半ペラ三十二枚書く、下書 清書、

五月十二日 水曜日、曇

着、海ノ二通、楠*

発、海ノ、矢貴、楠、亮一、

着、上田君よりハガキ

◎びっくり箱 六十五枚 書上げる。

*楠 「講談雑誌」編集者

五月十三日 木曜日、晴

着、「黒猫」

発。「びっくり箱」

着。九鬼、海野、明星社*、読売より金催促、ルミの保険

*明星社 「オール物語」(のちに「千一夜」に改題)を発行

五月十四日、金曜日。曇

着、女房、

五月十五日、

着、鬼怒川、

獄門島 六十四枚(第十五回)

十九章 夜はすべての猫が…

二十章 吊鐘歩く

着、江戸川、海野、

五月十六日、

着、豊田(中矢)ハガキ、

発、海野、江戸川、今在(ハガキ)明星社(断りのハガキ)

着、海ノ三通、森下、西田(二通)九鬼、読売より稿料(六月号)

五二七〇、(九三〇)……びっくり箱

五月十七日、月曜日、曇

着、矢貴書店(藤間)偕成社(岡田安郎)

発、海野、森下、西田、

着、九鬼

五月十八日、火曜日、晴

着

五月十九日、水曜日、晴

着

発、海野、九鬼(速)岡田(速)

着。西田、海野(ハガキと手紙)雨読

五月二十日 木曜日、晴

着。「ホーム」、「面白世界」*、「小説の泉」*「関川君より新聞」妹尾

さんより手紙。

*「面白世界」面白世界社発行のカストリ雑誌

*「小説の泉」矢貴書店発行の雑誌

五月二十一日、金曜日、晴

着、「宝石」より稿料、水谷(捕物 探偵 集申込ミ 海野、原田、

「Gメン」「クラブ」

六六三〇円(宝石)(二・一七〇)

女房とよし子、岡山まわり。

五月二十二日、土曜日、雨後晴

着、海野

発、海野(二通)水谷(切抜二通)電報三 ミシマ、ナカヤ クキ

着、海野、西田、上田、矢貴、亮一。

五月二十三日、日曜日、晴

着。ナシ

発。亮一、上田、矢貴、

五月二十四日、月曜日、晴

着、阿知波、海野、ハガキ二通

五月二十五日、火曜日、晴

着、海ノ、

着、六桜社(上田)名古屋(朝日)

五月二十五日、火曜日

着、佐伯(楠君の世話の人)

五月二十六日、水曜日、晴

着、読売より稿料、

八・四二五(一・四八五)

五月二十七日 木曜日、晴

着、話社*、海ノ、作家クラブ

発、セノオ、アチバ
運送屋来る。

*話社「話」を発行

五月二十八日 金曜日

着、海ノ、水谷、

五月二十九日、

着、世間書房*、(四国春秋*)猪子、昭和*、原田、
豊田君来。

二〇〇〇円(捕物 夜歩く)

*世間書房「世間」を発行

*四国春秋 四国新聞社発行の地方誌

*昭和 昭和書房。「文藝読物」を発行

五月三十日、

着、海ノ、城(五〇〇円承知)、九鬼、

発、水谷、亮一、海ノ(2) 四国春秋 世間書房(原) 文藝読物*、

河井、東京へ以上二通稿料サイソク。

着、上田、楠 海ノ(2)、関川、双立社*

*文藝読物 戦前「オール讀物」編集長だった香西昇が昭和22年に昭和書房より発
行した雑誌

*双立社「小説と講談」を発行

五月三十一日、

六月一日

着、海野、豊田君来て泊る。

◎怪談比丘尼宿 六十四枚

六月二日

着、渡辺、雑誌類、

豊田君、原稿もってかへる。

一・五〇〇〇円 夜歩く。

六月三日、

六月四日、

着、荒木あき夫人より荒木氏の死を報告、

着、「読物と漫画」より稿料、前田、萱原

九四三五・(一・六六五)

六月五日

着、海ノ(手紙とハガキ) 江戸川、河井

六月六日、

着、高森

六月七日、

着、雑誌類、

発、江戸川、海ノ、荒木、児島

六月八日、

着、「夕刊岡山」より選評

三〇〇〇〇〇

発、渡辺、高森

夕方、女房上京す。

六月九日、水曜日、晴

発、着なし。

六月十日 木曜日 晴、

着、雑誌類、海野(ハガキと手紙) 妹尾、

発、海ノ二通、博、

着、海ノ、大毎、新星社
六月十一日 金曜日、晴

着、雑誌類

発、海ノ

着、九鬼、偕成社、

六月十八日、金

発、海ノへ

◎「怪獣男爵」二〇〇枚

六月十九日、土

六月二十日、日曜日、晴、

着、海ノ二通、西田、島*、

*島 島久平。探偵作家。関西探偵小説新人会創立メンバー

六月二十一日 月 晴

着、江戸川、孝子、

発、海ノ、乾、孝子、孝子、

六月二十二日、火

着、九鬼、博、上田、

六月二十三日、水

着、武田、村木、

◎「びっくり箱」三十一枚、

六月二十四日 木、

着、海ノ、(ハガキ) 宝石、講談雑誌

六月二十五日 金

着、アチバ(ハガキ) 亮一、藤間、

六月二十六日 土 雨、

久しぶりの雨、文字どほり早天の慈雨なり。但し、この雨も大した降り
ならざる由。

着、森下、海野への配達証明、

夜相当の雨あり。

着、江戸川、長井、海ノ

六月二十七日、日曜日、曇、時々小雨

着、海ノ、六桜社、孝子、乾

発、高森、江戸川、海野、太田*、森下、武田、九鬼、鬼怒川、西田、

孝子

*太田 不明

六月二十八日、月曜日、雨、

着、海ノ、月刊読売、

発、「獄門島」原稿

◎獄門島・第十六回。六十枚、

第二十一章、忠臣蔵十二段返し、

第二十二章、見落してみた断片

昨夜又相当の雨あり。今日は一日降ったり歇んだり。相当の降りなり。

六月二十九日 火曜日、晴

着、雑誌類のみ。孝子より空罐の類

暑し。

六月三十日、水曜日、晴、

着、海ノ、孝子、岡田(偕成社) 文友社*、

豊田来る。

*文友社 文友館のことか。昭和23年に博文館は好文館・博友社・文友館に分割した

七月一日、木曜日、雨

着、奥村君より、印税分前

二五〇〇円 捕物集

◎「浄玻璃の鏡」六十七枚、

今日の雨にて、水事情いよいよ好望。田植え大いに進む。

七月二日、金曜日、晴、

着、海ノ、武田、上田 海ノ、作家クラブ、

「小説の泉」へ電報、

七月三日、土曜日、曇、

発、江戸川、横溝、奥村、海ノ。

着、森下、鬼怒川、海ノ、小包、木々ノ本

一五・〇〇〇円 電為。

発、海ノ(2)、森下、孝子、税ム署、江戸川、奥村

着、海ノ、アチバ

七月四日、日曜日、雨、

着、亮一、海野、

着、雑誌類、

発、海野、島久平、

七月五日、月曜日、雨、

着、緒方(家賃)荒木、

七月六日、火曜日、曇、

着、雑誌、新聞、

七月七日、水曜日、曇

着なし。

びつくり箱殺人事件、七十枚、

第十五章 びつくりシャックリ時代

第十六章、吾輩はカモである。

七月八日、木曜日、曇、

着、海野、富夫、若尾(東横)

発 若尾、

七月九日、金曜日 晴、

着、江戸川、武田、大地、亮一、読売

九四八六(一・六七四) びつくり箱

発、海野、亮一、武田、高木*、佐伯、江戸川、

「猫侍」五十六枚、

*高木 高木彬光。推理作家

〔七月十日〜九月三十日未記入〕

十月一日、金曜日、曇、

来客。中村喬一君*、

モリちゃん*来りて鶏小屋の建設はじむ。午後海野邸へ出かけんとして、

電車に乗りしも気分悪しく、あわてて飛降り逃げかへり、終日寝てる。夜、

ビール二本、酒二本。

*中村喬一君 不明

*モリちゃん 植木屋か

十月二日、土曜日、曇、

来客、新井君(小学館) 安藤君(中部日本) 博。りべらる。

モリちゃんと老植木師来り、鶏小屋竣成。夜、酒二本半。

十月三日、日曜日、雨

来信、海野2通、自由出版社よりハガキ。小栗一弥君*より小栗氏著

書数冊、サン・ルーム*、子供の科学*(自由)

終日仕事せず、小栗君の小説を読む。夕方沢井氏来り、ラヂオ修繕成る。

台風大したことなし過ぎたらしい。

来信、海野、博、江戸川、

往信、海野、江戸川、熊谷、

ルミ、成城パス。女房入学手続きにいく。

十月八日、金曜日、晴、

来客、中村君、池内君、小学館、渡辺(世間)

二、七五(非人の討仇)

池内君、(怪談園の鴛鴦)を持帰る。渡辺(五)を置いて行く。

小学館へ、雪だるま四三枚渡。

◎雪だるま 四十三枚、

発信、城、納言*、小林

*納言 納言恭平。小説家。捕物作家クラブ発起人

十月九日、土曜日、晴、

来客、海野春彦君*、ルミのお祝頂戴。

一日中かゝってドクロ検校に入朱。

発信、服部元正、

来信、西田、海ノ、

春彦君を引きとめ、ルミのお祝ひをする。

*海野春彦君 海野十三の長男・晴彦のこと

十月十日、日曜日 雨、

来客、内田書店、「渦巻く濃霧」*を出すことにする。

来信、熊谷、内田のキンさん*。

発信、海ノ

*「渦巻く濃霧」 初書籍化は昭和4年、平凡社刊の「少年冒険小説全集第12巻」として(写真P122)。昭和24年2月、内田書店からの刊行時に『まぼろし曲馬団』に改

十月七日、木曜日、曇、

来信、海野三通、

本位田君、自転車でかへる。台風今夜中に来る由。

十月六日、水曜日、雨

来客、小学館。

本位田君、自転車でかへる。台風今夜中に来る由。

十月五日、火曜日、曇、

来客、小学館、中村 本位田君、鷺の宮*、「ロック」(市川)

夜歩く(六三) 書上ぐ。本位田、自転車をとりに来て泊っていく。ルミ、

成城入試、

*鷺の宮 鷺ノ宮書房。昭和21年に『人形佐七捕物文庫』を刊行

十月六日、水曜日、雨

来客、小学館。

本位田君、自転車でかへる。台風今夜中に来る由。

十月七日、木曜日、曇、

来信、海野三通、

本位田君、自転車でかへる。台風今夜中に来る由。

*内田のキンさん 内田謹一郎。岡田村字桜の住人

十月十一日、月曜日、晴、

来信、海野、

発信、海ノ、城、納言、小林、

十月十二日、火曜日、晴、

海野氏宅へ、女房ルミとともにいく。御馳走になって帰る。夜、宮田*、

長谷川、山内光来り、スキヤキを食ふ。宮田（松茸）長谷川（ウイスキー持参）

*宮田 宮田新八郎。新聞記者、編集者。戦後「週刊朝日」編集長を務める。大正15年に下宿先で横溝と知り合い、慶應大学の同窓だった渡辺温を横溝に紹介した

十月十三日、水曜日、曇、

発信、西田（速達）森下、宮田、海ノ、

来客、前田君来り、土曜会を二十三日、成城で行ふことを知らせて来る。西田氏へ速達を出す。

十月十四日 木曜日、晴、

蟹を書きはじめる。

十月十五日、金曜日、晴・曇、

蟹の一部分渡す。夜、かもめ*ト部□元氏より金来る。

二・二五〇

一・九〇〇

偕成社*より「怪獣」の校正来る。二時迄かゝって校正をする。

*かもめ かもめ書房。横溝はこの10月に同社より『探偵小説』を刊行

*偕成社 この11月に同社より『怪獣男爵』を刊行

十月十六日 土曜日、晴、

前田（作家クラブ）君来り、土曜会又三十日とやら。西田氏は諦めることにする。

◎蟹 六十九枚渡す。

十月十七日 日曜日、晴

一日ブラブラ寝てる。信木君*夜来て、原稿サイソク。二十日まで書くことを約束する。散髪。

発信、海ノ、北海道作家クラブ、笹本*

夕刊岡山の芹田来り、県賞につき諒解を得ていく。

*信木君 不明。20日締切という記述から、「りべらる」の編集者か

*笹本 笹本寅。小説家。横溝の捕物帳出版を手がけた八紘社杉山書店を紹介した

十月十八日 晴、月曜日、

風強けれど晴、ルミ初登校。

着。教山*、森下、角田、

発信、森下、海ノ、鬼怒川、

来客、倉橋、内田、

二・〇（渦巻く濃霧内金）鐘楼の少女 バラの怪盗、

*教山 不明

十月十九日、晴、火曜日、

来客、延原、新井（小学館）りべらる、青山*、オール、

一・〇二 小学館（雪だるま）

四・〇〇 りべらる

青山、幽霊鉄仮面*を持ちかへる。昨日夜中に起きて仕事、六時ごろ眠る。

*青山 不明。青山俊文二（文筆家、風俗研究者）か

*幽霊鉄仮面 初出は「新少年」昭和12年4月〜13年3月。昭和24年1月に東光出

版社が初めて単行本を出版しており、そのために初出誌を持ち帰ったということか

十月二十日、

着、海ノ、

来客、りべらる、市川、信木

◎恋の通し矢 八十三枚（りべらる）

市川君に「神の矢」の題と絵組み。

昭和三十年 一九五五年

「二月一日 土」 「天気」晴 「発信」賀状 「受信」賀状

快晴、気温、去年の正月より低し。トソ、雑煮、（餅四つ） 旧臘書きそ

びれた年賀状かく。「墮ちたる天女」に手を入れる。博来り、年始、三

人の子どものうち、上ふたりをおいていく。

「二月二日 日」 「天気」晴 「発信」賀状 「受信」賀状

雑煮（餅四つ） 年賀状書く。「墮ちたる天女」に手を入れる。高木君よ

り結婚記念日の祝電来る（アタミより） 四時頃、水谷君、六時頃 津川

君*来り、年始、

*津川君 津川溶々。「宝石」編集長をつとめた。映画評論家としても知られる

「二月三日 月」 「天気」晴 「発信」賀状 「受信」賀状

雑煮、餅四つ 年賀状書く。カズ子*来る。「城」「梅田」年始、杉山、角

兵衛獅子*と、狸御殿*持参。酔うて半時間寝る。夕刻、神尾君*三

味線持参。

*カズ子 横溝正史の弟・武夫の娘、和子

*角兵衛獅子、人形佐七捕物文庫『角兵衛獅子』（昭和22年、杉山書店）

「墮ちたる天女」最後を書直し百六十枚となる。久保田君来る。まぼろし曲馬団*渡す。神尾君来る。三味線のこと依頼す。

*まぼろし曲馬団 昭和30年3月刊のポプラ社版のための原稿か

〔二月九日 日〕

「蜃気楼島の情熱」書足しをする。女房神尾君とともに三味線をあつらへにいく。

〔二月十日 月〕

「散髪」 「蜃気楼島の情熱」百枚となる。他、旧作等読直してみる。

〔二月十一日 火〕 「天気」晴 「余記」野瀬君・電 「音羽の猫」 「発信」平吉少年たちに賀状 「受信」平吉父子

根津先生*に歯を見てもらふ。レントゲン写真とる。佐分利先生*より平吉二世の部屋のこと電話あり。大体O.K. 恰もよし平吉君より来信。返事書く。仕事出来ず。捕物帳の筋を大体まとめる。夜、キングの武田君来る。捕物の小ミダシ入れるのを忘れてたのなり。

*根津先生 成城の歯科医

*佐分利先生 不明

〔二月十二日 水〕 「天気」晴 「余記」東宝より原作料 荒木、キング* 稿料

歯ぐきはれて気分悪し。東宝の金原君、めくら狼*原作料の一部を持つてくる。黒岩君*来る。荒木の捕物、呪いの罝針*を書きはじめるが熱があるのか気分悪く、半ペラ三十二枚だけ渡して、門田先生*へいきペニシリ売って貰ふ。夜おそくキングより稿料とどく。

*めくら狼 「人形佐七捕物帖 めくら狼」を原作とした東宝映画。昭和30年3月に公開。2月16日の日記(P71)には試写を見た記述がある

*黒岩君 大映の社員か

*門田先生 門田正男。杏雲堂病院の結核専門医

〔二月十三日 木〕 「天気」晴 「余記」呪いの罝針九十四枚

根津先生へいつて歯の治療。荒木の捕物、呪いの罝針*書きあげる。九十四枚 夜、「砂漠は生きている」*を見に行くことを女房と約束す。

*「砂漠は生きている」ウォルト・ディズニー製作のドキュメンタリー映画。昭和30年日本公開

〔二月十四日 金〕 「天気」晴

下痢 映画見物中止 家内だけ見に行く。榎本君より電話 東宝七十万円の由。テレビを売りに来た人にあふが、途中で便をもよおしかへって貰ふ。

〔二月十五日 土〕 「天気」晴

歯医者へいくが下痢を催しかへる。終日何もせず。

〔二月十六日 日〕

滝村プロデューサー*来訪。吸血蛾 ぜひ欲しいとのこと。

*滝村プロデューサー 滝村和男。映画「吸血蛾」(東宝、昭和31年)のプロデューサー

〔二月十七日 月〕 「天気」晴

東宝の金原君に電話する。今日きて貰ふはずだったのを十九日に延期申込む。石膏魔*のストーリー書いてみる。

*石膏魔 未完・生前未発表。この作品をもとに映画脚本化の話が進む(P69・70)が頓挫した

〔二月十八日 火〕

根津先生で歯の治療。午前中に神尾君来る。終日ブラブラ何も仕事手につかず。夕刻伊藤君より電話、桃園書房*の稿料二十二日の由。

*桃園書房 出版社。「小説倶楽部」「小説と読物」を発行

〔二月十九日 水〕

金原君来る。石膏魔の口立てをする。

〔二月二十日 木〕 「天気」晴 「余記」小説と読物 小説クラブの稿料

神尾君来る。浅見君、乱歩全集のセンデン文、二三枚書くやうに頼まれる。原田君来訪。縁談也。マブチ君*来る。

*マブチ君 不明

〔二月二十一日 金〕

角谷君来る。「墮ちたる天女」を渡す。「湖泥」の書直しをはじめる。

〔二月二十二日 土〕

今日は講談社の会出席しないつもりで、「湖泥」を書きつけてみたが、原田君*再三の電話により出席。女房同伴。柳橋、亀清*が会場、戦後の芸者の美しからぬに驚く。城君の案内にて神楽坂にて二次会。

*原田君 原田裕。講談社の編集者。のちの出版芸術社社長。1月20日の「原田君は「縁談」とあるので別人か

〔二月二十三日 日〕

頭少し痛けれど、「湖泥」をつづける。終日客なし。千代の山*優勝。

*千代の山 第41代横綱・千代の山雅信

〔二月二十四日 月〕

「湖泥」書きつづける。神尾君来る。「悪霊の翼」といふ題にする。黒岩君来る。「吸血蛾」大映に渡す決心するが、その後、榎本君来りまた迷ふ。

〔二月二十五日 火〕 「余記」原田君より電話

午前中早く、「河出」来る。印税、出版後一ヶ月して、四ヶ月分払と聞いておどろく。初めに約束してなかった手落ちなり。杉山、手形の印税。果してどうなることやら。日高君*(東宝シナリオライター)来り「石膏魔」の台本について打合せ。

*日高君 日高繁明。映画監督、脚本家。未発表の映画シナリオ「石膏美人」を執筆

〔二月二十六日 水〕 「天気」晴 「余記」湖泥三百拾五枚

杉山に検印三千渡す。「湖泥」書上げる

〔二月二十七日 木〕 「天気」晴

根津先生へいき、歯二本抜く。午後大事をとって安静。左の顔、しだいに腫れはじめる。終日寝床で暮す。

〔二月二十八日 金〕 「天気」晴

左の頬、恐ろしく腫れたり。終日、何もせず寝床暮し。夕方、門田先生の来訪を仰ぎ、ペニシリンの注射。

〔二月二十九日 土〕 「天気」雨

左の頬つべの腫れ、はかばかしく引かず。久しぶりの雨。

〔二月三十日 日〕 「天気」晴

よいぐあひに雨あがり、割合ひに暖くなる。原田君、石原*母堂来る。頬の腫れ大分ひきたれど、眼の下など気持悪し。

*石原 不明

〔二月三十一日 月〕 「天気」晴 「受信」平吉君

終日、寝床のなか。床屋さんを断る。金原君来り。「滝村さん、今日来る筈なりしも、風邪のため来られぬ。一両日に来訪の予定。又、「石膏魔」の台本七、八十枚出来、五日ごろ相談に来るとのこと」夜、大火の夢見て、眼ざめても気分悪し。

〔二月一日 火〕 「天気」晴

久しぶりに起きたら、体ふらふら足がぐくとする。体をならすことに専念、仕事せず。午前中に、根津先生へいく。腫れまだ残る。

〔二月二日 水〕 「天気」晴

鋼鉄魔人半分書いて渡す。

〔二月三日 木〕 「天気」夜雨 「余記」神尾君に「かめれおん」渡す。小

説サロより稿料。

加藤君来る。原稿七日と約束。平吉夫人、息子とともに来る。金原君より電話あり。日高君と共に来る。シナリオ半分出来、検討する。「鋼鉄魔人」全部渡し、獣人魔島、半ペラ九枚渡す。

〔二月四日 金〕「天気」雨、晴

平吉夫人来り、借間の保証人の判押す。「獣人魔島」全部渡す。榎本君より電話。東映渡辺より電ワ。明日いくとのこと。

〔二月五日 土〕「余記」東映渡辺 小説クラブ マブチ

・東映渡辺君来り、五月封切のため、不死蝶をほしいとの申込み。マブチ君来るも月曜日といふことにする。・三味線二丁とどく。・夜、神尾君にきてもらひ、家内、よし子、ルミ、稽古始め。◎電気屋来り工事。◎モリちゃん、池の菰をとる。

〔二月六日 日〕「天気」寒し

昨夜より吹きはじめた北の風なほ強く、寒気ぶりかへす。関川君来る。縁談なり、家内にいろいろ注意す。午後、日高君来る。シナリオ第一稿完成す。いろいろとダメを出す。昨日、植木屋に菰をとらせたのに、寒気ぶり返して、池の水凍ってしまふ。少し早まつたり。電気工事了。

〔二月七日 月〕

家内富士銀行へ新株払込みにいく。橋本さんを頼んでフトン造り 部屋の取片付け。一日気分悪しく風邪気味にて寝る。雪の予想なりしも雨。

〔二月八日 火〕

一日臥床、風邪気味少し妙にて、腹具合無闇に悪く度々下痢、食欲なし。夜神尾来り、三人三味線の稽古。自分は寢床にみて神尾君に会はず。

〔二月九日 水〕「天気」晴「余記」杉山、本を持参。留守にてあはず。

気分悪しく一日中歩きまはる。大映より黒岩君使ひ来れる由なるも、外

出中にて会はず。三味線箱来る。食欲なし。

〔二月十日 木〕「天気」晴

三つ首塔*書きはじめ。夜までに半ペラ六十枚一寸渡し。その中より挿エの場面とって貰ふことにする。なんとなく寒くなりさうなり。

〔二月十一日 金〕「天気」晴

三つ首塔*あと半ペラ十六枚程渡す。午後から風吹きはじめて寒し。

〔二月十二日 土〕「天気」晴

寒し。おたいちゃん*、女中をつれてくる予定なるも来らず。明日か。「吸血蛾」書きはじめるが気合乗らず。今朝、水道凍りて、十一時ごろまでとけず。今冬第一の凍りようなり。夜、神尾君。

*おたいちゃん 不明

〔二月十三日 日〕「天気」晴「余記」杉山に検印六千渡す。六千部分の手形持参。

「吸血蛾」八十三枚一気に書く。はじめのはう、半ペラ三十枚程書いてあったのを、はじめから書直したために、夜七時までかかる。午前八時に机にむかつたのである。寒し。おたいちゃん、女中をつれて来る。よい子なり。新潟猛吹雪の由。

〔二月十四日 月〕「天気」晴

散髪、入浴。午後、黒岩君来る。(大映) 稍温し。池、鉢前凍る。終日、何もせず。

〔二月十五日 火〕「天気」晴

寒気ゆるむか。鉢前今朝は凍ってをらず、なんとなく心うれし。東映角谷(原稿延期)謂ク(地名変更)の電話かけさせることにする。池の水もやや解け気味、うれし。花見の仇討*筋まとまらぬながら、取り敢えず書きはじめ。金原君より試写案内。三十五枚書く。税金調べをやる。

神尾君ケイコ。

〔二月十六日 水〕「天気」晴 稍寒し。「余記」集英社より「稿料」として午后

午前中に本数冊買ってくる。「花見の討仇」を書きつづく。午後、宮城君*迎えにくるので、「東宝」へ試写を見に行く。めくら狼*まあまあといふところ。「花見の仇討ち」興味中断されて書く気せず、明日にのばしてもらふ。

*宮城君 不明

〔二月十七日 木〕「天気」晴 寒し「余記」「花見の仇討」九十一枚鉢前も凍る。池カチンカチンに凍り、鯉大きなのが三匹ういてゐる。あわてて氷をわって、氷を三分の一ほどかき出すに、鯉生きかへる。酸素不足か。税務署来る。「花見の仇討」九十一枚渡す。

昭和三年 一九五七年

四月八日 晴天

昨夜、門田先生の来診を仰ぐ。血圧一七〇。エガリン*の連用をすすめられる。今晩カピ*死す。先月十四日医師につけて以来のカピの苦闘を思へば涙なしにはゐられない。家内をはじめ一同よく面倒を見たり。遺体を花に飾りて、万事医者にまかせて、のち、カピの小屋を焼く。晴天のもと炎上する犬舎の焰を見て一同黙然たり。面白ぶつく*。「幼年クラブ」*もう一日延期してもらふ。講談の捕物一ヶ月延期。トマト、芽をふきはじむ。胡瓜は双つ葉が出たり。ともに先月二十四日温床に播種したものである。本日はいくらか耳鳴り少いような気がするが。……

講談の捕物、結局書かねばならぬことになる。酒三合、タバコ十六本。

*エガリン 血圧降下剤

*カピ 横溝家の愛犬(写真P11)

*面白ぶつく 「おもしろブック」。集英社が昭和24年に創刊した少年誌

*「幼年クラブ」講談社発行の児童雑誌

四月九日 晴天

朝、眼をさますに耳鳴りしきりにして、左手の外側掌と、左足の同じ部分が、ともに軽くしびれている。これにていっぺんに自信挫け、仕事の意欲を失う。午前中、散歩約一時間。午後、女房とともに堆肥作り。(約二時間)動いている間中、耳鳴りを意識して不快なり。この耳鳴りの原因は、ひとつは一日よりの甲子園野球をテレビで視すぎたせいに非ずやと思う。夕方「面白ぶつく」来るが、帰って貰ふ。幼年クラブも明日のこととする。酒三合。タバコ二十一本。

四月十日 曇りてやや薄ら寒し。

ヒヤシンス、すでに萎れはじめたれど、チューリップはまだ花開かず。今年にはチューリップ遅いのではないか。庭桜、まっ白に咲きて美し。池のほとりの笠見月、黄色い花を一面につけて、すでに萎れはじめたるが如し。破れ笠数日前に、破れ傘の如き葉を開く。温床の胡瓜、トマトなど、半ば発芽したるも、ナスのみ未だ。同日に播種したものうち、胡瓜一番早く、トマトこれにつき、ナス最もおそし。播種した場所にもよるか。(来年の参考のために。)幼年クラブに七枚渡す。但し、内藤君には会わず。角川の志摩君*とやらに、江戸川、木々、横溝三人一組で一冊出すとやら。明日写真撮影に来るとか。午後テレビでオリオンズーフライヤーズ戦を見る。夜はコマ劇場を二時間にわたりて視聴す。終日耳鳴りに悩む。

「日記上部」角川へ、「真珠郎」「鬼火」「蔵の中」渡す。

* 国民文庫「現代国民文学全集」。昭和32年に『現代国民文学全集 第8巻 江戸川乱歩 木々高太郎 横溝正史集』が角川書店より刊行されている

四月十一日 曇りて風強し。いやな日なり。「面白ぶつく」渡す。書くことにいよいよ自信失う。但し、耳鳴りはいくらかよき方。午後水谷君より電話、角川主人を伴ひて明日ゴルフの帰途写真撮りにくる由。講談クラブへはかつて河出へ書いて返されたものを渡すことに極める。インゲン播種。カピの二世数日中に来るとか。カピの治料費一切含めて三万六千円也。

四月十二日 曇、小雨

午前、犬商と獣医小犬をもってくる。柴なるよしも、カピより毛の色薄し。但し、毛の質は柔かにて、カピよりはよきようにも思われる。牡犬なり。生後六十日前後の由。買うことにする。七千五百円。水谷君、角川の主人とともに来る。先方の希望によりて、八つ墓村を渡す。小雨そぼ降る庭にて、写真十数枚撮影。夜、カピ二世啼きてよく眠れず。東方社に追加原稿「墮ちたる天女」

「日記上部」講談クラブへ「三河万才」角川に「八つ墓村」東方社に「墮ちたる天女」

四月十三日 土曜日 曇

仕事するつもりなりしも、睡眠不足に頭脳ぼんやりして、手につきそうにない。テレビでも見て、一日消すことにする。法立戦、阪急南海戦、

早法戦を見る。夜、またカピ、啼きて眠れず。明方頃、家人にいつて、カピを戸外へ出すことにす。内玄関においていたものである。

四月十四日 日曜日 晴、風やや強し。

睡眠不足で頭ぼんやり。午前中テレビ、日活映画「銀座二十四帖」*を見る。取りともなきものなりし。午後テレビで野球、夜はテレビで「忘却の花びら」*を見る。午前見た日活映画より面白し。

* 銀座二十四帖 昭和30年公開、川島雄三監督の日活映画

* 「忘却の花びら」 昭和32年公開、杉江敏雄監督の東宝映画

四月十五日 月曜日 終日無為

四月十六日 火曜日

日曜日の晩よりカピを屋外に睡らせることにするに、成績よろしい。恐らく内玄関は窮屈で眠られなかつたものらしい。カピ朝より絶食。午前十一時頃医者来り、駆虫薬のませる。蛔虫数匹。カピ、手当八時頃に至りて、初めて食事でありつく。それまで腹をへらして、ひよろ／＼なるが、おかしくも哀れであった。

四月十七日 水曜日 終日無為

四月十八日 木曜日

オールの安藤君来訪。原稿依頼。かくも自信を失へる自分に原稿依頼が不思議のやうな気がする。でも引受けることは引受ける。立直りたきものなり。トヨダを昨年買っておいたのに一〇〇円ばかり値上がりなり。家内安田女史に売るべきや否やを相談に赴く。五月まで待つべしと。